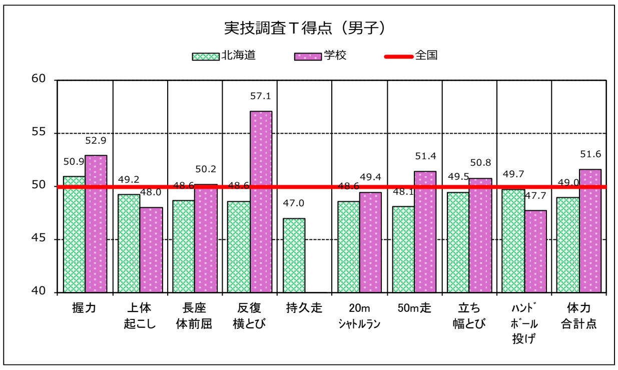
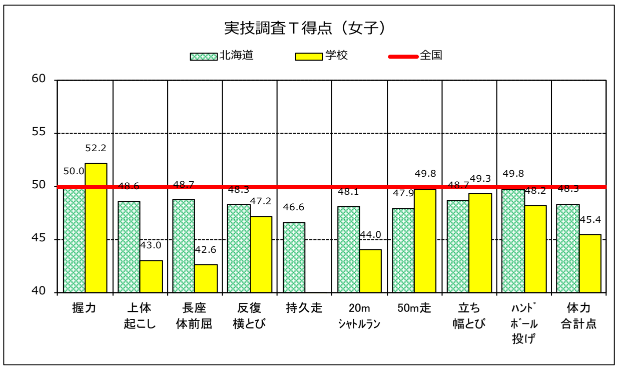
令和７年度　全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

令和年7月実施(調査対象：中学2年生)

実技集計

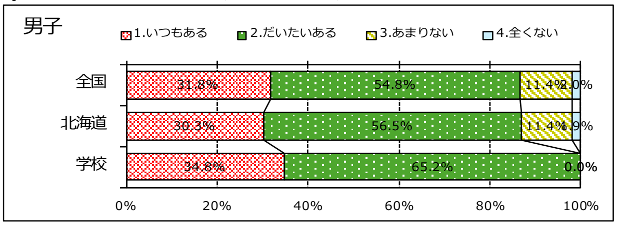


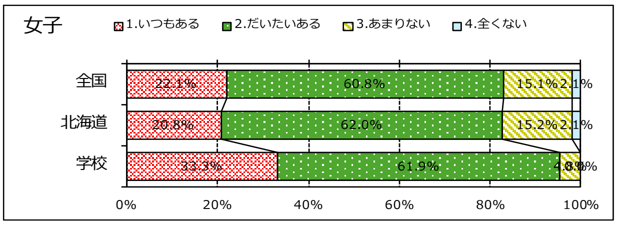


・男子は５項目、女子は１項目で全国平均を上回る結果となり、女子は全国平均より大きく下回る（５ポイント以上）ものが３項目ありました。
・体育館に全校生徒の結果の掲示を見て、過去の全国平均と前年度の自己記録をもとに目標記録を設定し、意欲的に取り組む姿が見られました。
・年間を通して、「２分間チャレンジ」と称し、自己の体力向上に、授業開始２分前の使い方を工夫しています。自身の新体力テストを分析し、低いまたは今後伸ばしたい体力要素をピックアップして、それを補強するための運動をＩＣＴ機器を活用して調べて行うなど、自らの体力向上に合理的に取り組んでいます。
＊「持久走」と「20mシャトルラン」は選択のため、本校は「20mシャトルラン」を選択しています。

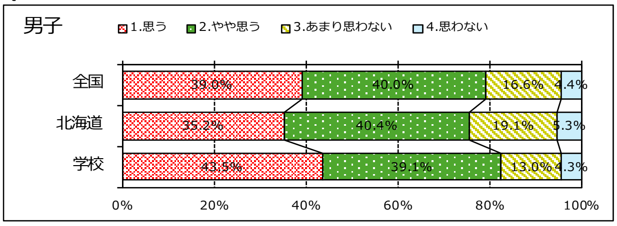
生徒質問紙集計

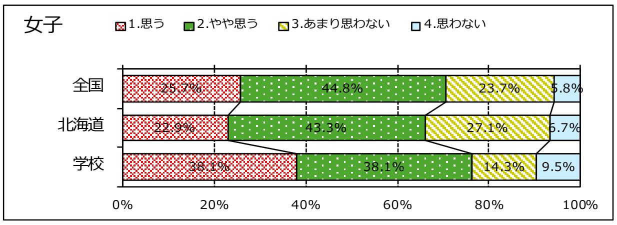
Q12.保健体育の授業で、目標（ねらい・めあて）を意識して学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



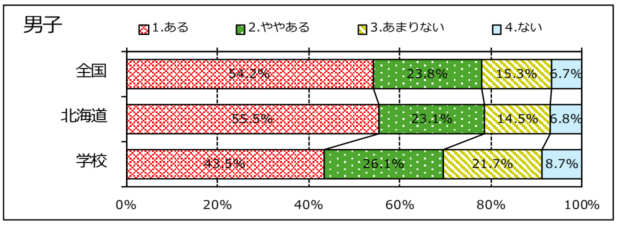


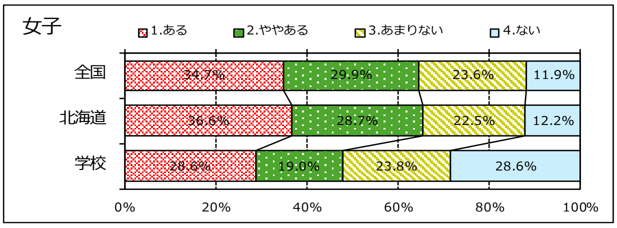
Q16.保健の授業で学習した運動、食事、休養及び睡眠に気をつけた生活を送れていると思いますか。



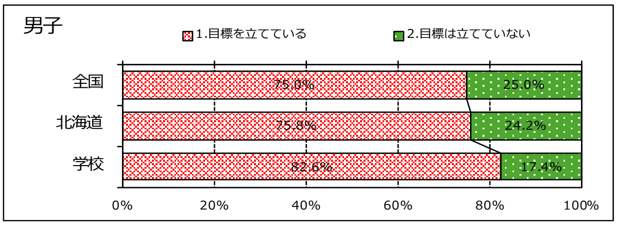


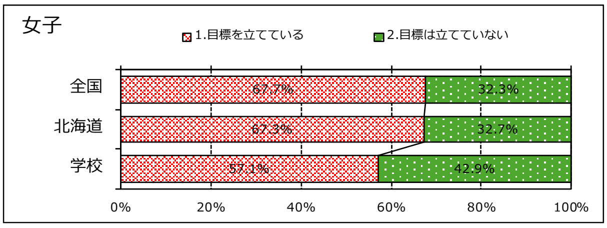
Q2-2.運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツへの様々な関わり方について、興味や関心がありますか。❷運動やスポーツをみること





Q15.体力テストの結果や体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てていますか。





・全体的に全国・北海道の平均を上回る結果となっており、体育分野、保健分野ともに意欲的に活動することができています。
・授業の目標を意識して学習することで、子どもたちの「できた・わかった」に繋がっています。
・健康寿命を伸ばすための要素（運動・食事・休養及び睡眠）が習慣化できている生徒が多いです。
・男女ともに、運動やスポーツに対する興味・関心の「見る」部分が低い数値となっています。授業での意識は継続しつつ、体育理論等で見ることの楽しさ（オリンピック観戦等）を学ぶ機会を設けています。
・「体力テスト分析シート」を活用して自分の数値等から目標を立てたものを、常に確認（見える化）できるような工夫を行っていきます。